

(29) 「寛文戊□

(154) × 19 × 9 019 子 337

(30) 寛文九年」(線刻)

(115) × 15 × 7 061 タケ 885

(31) [延カ] □宝三年 池田屋

(101) × (24) × 5 081 ヒノキ 286

(27)は巡礼札、(28)は掟札である。(28)は曲物蓋、(29)は箱、(31)は板に墨書、(30)は茶杓の柄に線刻したもので、このほか年紀を記したものが幾つかある。また、三〜四cm四方の厚めの材に人足名を記した人足札、糸巻に所有を示す人名を記したもの、曲物側板に「上候 卜地 とりめ 二貫文の 代拾匁」と墨書のあるもの、木製容器の蓋に「はま なつとう れん□□」と記したもの等があり、当時の雇用労働・経済活動を知る資料として興味深い。

(梅川光隆)

木簡研究 第三号

巻頭言——中国簡牘呼称についての提言——

大庭 脩

一九八〇年出土の木簡

概要 平城宮・京跡 平城京左京(外京)五条五坊七坪 藤原宮跡 稗田遺跡——下ッ道——長岡京跡 大蔵司遺跡 西沖遺跡 御殿・二之宮遺跡 野路岡田遺跡 多賀城跡 漆町西遺跡 桜町遺跡 白山橋遺跡 御館遺跡 御着城跡 鵜・城山遺跡 草戸千軒町遺跡 野田地区遺跡 観世音寺僧房跡 大宰府学校院跡東辺部

一九七七年以前出土の木簡 (三)

平城宮跡(第一次・第二次北) 薬師寺 下岡田遺跡

中国における簡牘研究の位相

池田 温

庸米付札について

狩野 久

静岡県城山遺跡出土の具注暦木簡について

原 秀三郎

草戸千軒町遺跡出土の木簡——形態を中心に——

志田原重人

彙報

頒価 三五〇〇円 千四〇〇円